



酒向 弘康 議員

問 災害時車中泊使用協定の締結を

答 早急に調整をしていきたい



熊本へ西三河7市1町から支援物資を輸送

熊本地震の教訓から「想定外も想定した施策をすめる」という観点で問う。

問 震災支援の内容と現地の反応、今後の支援計画は。

答 **総務部長** ブルシート、トイレトペーパー、アルファ米を提供。非常に喜ばれたと聞いている。要請あればこたえない。役場庁舎などの耐震性と、災害時に行政機能低下に陥らない備えは。

答 全施設、現行の耐震基準に合致している。太陽光発電と自家発電装置により、活動は可能。

問 住宅の耐震化の進捗状況は。

答 **建設部長** 平成27年度末で85・7%。平成32年度までに95%にする計画。**問** 避難者数の想定とキャンプ不足の地区はないか。**答** **総務部長** 発災後1週間が最も多く53000人を想定。71箇所の避難所

で6110人の収容が可能。

問 大型駐車場を持つ事業所などと「車中泊避難所使用協定」の締結を。

答 被災後の企業活動に配慮し、早急に調整をしていきたい。

問 防災リーダー養成講座受講者に腕草やバッチを貸与し、活動しやすい工夫を。

答 腕草は、すぐにでも対応を考えたい。

問 小地域完結型の「地区社協」を

答 内部で検討をすすめる

本町の人口増と同時進行する「高齢化・介護・福祉」の問題を問う。

問 高齢化率、平均寿命、健康寿命の現状は。

答 **健康福祉部長** 高齢化率は平成26年で19・4%

平均寿命は平成22年で男性80・5歳、女性86・2歳。健康寿命は男性80・2歳、女性84・9歳。**問** 月額1万円の在宅介護手当ての内容と見直しの考えは。**答** 65歳以上の要介護3以上を介護している世帯に支給。平成23年度から5000円引き上げており、見直す考えはない。

問 「地域包括支援センター」をわかりやすい名称に変更を。**答** 介護保険法で定められた名称。愛称としての意見があれば検討。

問 「地域で支え合つまちづくり」をすすめるため地域の実情にあった「小地域完結型の地区社協」のしくみ構築に支援を。**答** **町長** 内部で検討をすすめていくと思っております。

問 「ものづくりの町」として、産・官・学の連携で、介護ロボット開発の考えは。**答** 新たに、そういうものを応用することも検討していきたい。